

奈良県奈良市

帝塚山大学 現代生活学部
居住空間デザイン学科

～時代が求める居住空間のプロを目指す～

生活者の目線に立ち、より良い生活空間を創造できる人材を育てる「帝塚山大学居住空間デザイン学科」。建築CAD検定試験にも積極的に取り組み、2016年7月の第65回建築CAD検定試験では、2級の部で最優秀団体賞を受賞するなど質の高い教育を実施している。今回はその取り組みについて学科長の辻川ひとみ先生にお話をうかがいました。



居住空間デザイン学科がある『奈良・学園前キャンパス』



居住空間デザイン学科
学科長 准教授 辻川ひとみ先生

貴学の特色をご紹介ください。

本学のスローガンは「実学の帝塚山大学」です。これは、実社会に根ざし、実社会から学び、実社会と向き合う“学び”を目指すという考えを実践することで、人生を豊かにするための力を身につけ、新しい未来を創造できる人材を社会に送り出すという考えです。

私が担当している現代生活学部居住空間デザイン学科でもそのスローガンのもと、作る側の考えだけではなく、人の目線に立った使う人の立場から、空間やモノをデザインできる、そういった人材を育成しています。

具体的には、建築・インテリア・プロダクト・ビジュアルの4つのデザインを軸に、大きな建物から小さな物まで、生活者の目線でトータルにバランスよくデザインできる、いわば「時代が求める居住空間のプロフェッショナル」を育てています。

建築CAD検定の受験のきっかけは？

建築CAD検定を導入したのは今から6年前の2011年でした。当時から本学科では建築・インテリア・デザイン関係の様々な資格試験に取り組んでいましたが、CADの資格試験については実施していませんでした。

当時からCADの資格はありましたが、その多くが実技ではなく筆記などの概論中心の試験で、内容も機械図面に関するものを含

んだ汎用的な力を要求するものであったため、検討はしても実施には至らなかったことを覚えています。

そんな時期に、連盟さんが実施する検定試験を知る機会があり、内容も建築に特化し、かつ社会で通用する実践型の実技試験ということで、「実学」をスローガンとする本学の方針にも合い、学科での導入を決めました。

学生さんの様子・反応はどうか？

建築製図実習の授業では、途中でついでに行けずに諦めてしまう学生が生じることもあるのですが、このCADの授業は「建築CAD検定」という明確な目標もあり、分かるまで何度も質問に来る等、特有の傾向がみられます。

これは、この検定試験を導入するまでは明らかにみられなかったことです。

他の試験では、わからないところは飛ばして進めばよいのですが、CADの場合は描き方がわからないとそこで止まってしまう先に進めなくなります。ですからそうならないためにも学生たちは聞き逃さないよう必死で授業についてくるのでしょう。

また、実技なので今までできなかったことができるようになったり、それまでより短時間で作図ができるようになるなど、自分の成長具合が目に見えてわかるという点も、

学生たちが諦めることなく一生懸命取り組める理由ではないでしょうか。



真剣にCADの課題に取り組む学生

団体表彰を何度か受賞されていますが、特別な授業の進め方があるのですか？

毎年、建築CAD検定の受験は、3年次の7月試験に照準を合わせています。

本学科は、二級建築士の合格を重要な目標としているため、1～2年までは手描き製図を指導しています。したがって、CAD実習は3年に入ってからスタートですので、試験までの時間数が多いわけでもなく、なにか特別なことをしていることもありません。

しいて言えば、私たちが受験する建築CAD検定2級は、立面図の屋根の描き方を理解しているかどうか大きなポイントになります。よって、屋根の描き方の手順についてはより詳しく丁寧に指導し、理解が深まるよう授業を進めています。あとは、学生たちの努力の結晶が団体表彰という形とし

て結実したのではと思います。

合格率が高いことは大変ありがたいことですが、実はそれよりも一人ひとりの学生が資格を取りたいと思い一生懸命に取り組む姿勢を、私は評価してあげたいと思っています。

オリジナル教材を作られたそうですね？

はい。以前も、指導用の教材は毎回資料を自作していました。しかし授業のたびに大量の資料を学生分コピーして配布していたため手間もコストも嵩み、思い切ってオリジナル教材を作り出版しました。

JW_CADを使った内容で、建築製図とCADの両方が学べるように意識して作りました。

具体的にはJW_CADの基本操作はもとより平面図・断面図・立面図・配置図の描き方から室内パースの作成方法まで、社会に出ても役に立つように工夫して編集しています。

もちろん建築CAD検定の対策としても大いに役立っています。

とくに学生の苦手な勾配屋根の作成部分などはわかり易いように意識して作りました。

発行(初版)が2013年でしたが、実は団体表彰もこの年から受賞するようになったので、もしかしたらこの教材の効果ができめんだったのかもしれない(笑)。



先生自作のオリジナルCADテキスト

建築CAD検定をご指導されて良かったと思う点は？

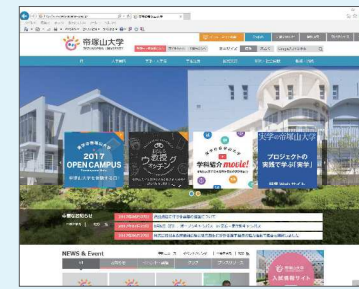
CADは、「学校で習った」という学生と「資格を持っている」という学生とでは、その持つ意味に大きな違いがあります。

すなわち、前者はコマンドの操作方法は知っていても、実際にどこまで使えるかを客観的に伝えることができません。

一方後者は、実務レベルで要求される能力を持ち合わせていることを意味します。

建築CAD検定試験はまさに実践型の実技試験で、社会に出ても何事もなくCADを使いこなせるようにと考えられた試験です。したがって、一生懸命努力してこの資格を得た学生たちが、実際の就職活動で非常に高い評価をいただき、採用の判断に役立てられていることがとても嬉しく、指導してきて良かったなと思います。

また、転職や再就職にもこの資格は活か



帝塚山大学のホームページ
(http://www.tezukayama-u.ac.jp/)



コンピュータ演習室(16号館)は最新のCADソフトやグラフィックデザインソフトが揃い充実した学習環境を整えている。

されるという側面があります。もちろん大変需要の多いCADオペレータの仕事につきことも可能ですし、転職なども含め将来に亘って必ず有益に働く資格であると感じています。

これからも多くの学生に推奨していきたいと思っています。



CGソフトを使い立体を創造する力も養っている

就職支援・就職状況について教えてください。

当大学では1年次からキャリアデザインを導入し、1～4年次まで体系的に就職支援を行っています。

中でも3年次には学生全員に対する個人面談を行い、一人ひとりの進路の希望に応じて最適なアドバイスを行っています。

このような細やかなサポートもあり、昨年は大学として97.9% (2017年3月31日現在) という高い就職率を達成しました。

おかげさまで居住空間デザイン学科についても、このところ建築・建設業界からの求人数がとて多く、就職希望者の7～8割が建築業界に進むことから98.4%という高い就職率を誇っています。

この就職実績は、先に述べた就職支援の取り組みに加え、長年の本学の伝統である「実学」の教育が、企業から高く評価されていることも理由のひとつに挙げられると思います。

たとえば、本学科のカリキュラムは、多くの資格取得を後押しする構成となっており、建築・インテリアといった居住空間に係る多角的な知識を深めながら、それぞれの資格を得ることができます。もちろん建築CAD検定試験もそのひとつで、昨年は合格率100%を達成しました。

学生には希望の進路につながる様々な知識やスキルを授業で身につけ、できれば多くの資格を取得し、就職活動に活かしてほしいと思います。



学生全員を行う個人面談

今後の取り組みや展望について教えてください。

「社会でしっかりと仕事をして活躍できる学生を育てていく」それに尽きると思います。

そのためには、多くのものに興味を持ち、学び、そして吸収しその一つひとつをまとめる能力が必要になります。

「建築は雑学」と言われるように、建築は幅広い分野についての知識も要求されます。しかし、この建築の世界は不思議とどこかで繋がっており、その学んだ知識は将来必ず活かされると私は信じています。

たくさんの方を学びその一つひとつを自分の力として身につけていく。そういった意識と行動を学生に期待していますし、これからも全力でサポートしていきたいですね。

建築の世界の活躍の場はとて広く、その可能性は限りなく広がっています。

夢に向かって羽ばたこうとする学生たちに心からのエールを送りたいと思います。

あとがき

辻川先生の「団体表彰よりも一人ひとりの学生が資格を取りたいと思い前向きに授業に取り組む姿勢が嬉しい」という言葉がとても印象的でした。

「取り組む過程が実は大切で結果はついてくるもの」、これが資格取得に取り組むことの本来の大きな意義なのかもしれません。

これからも学生の意欲に応え、夢を応援し続ける大学でありますことを期待しています。